

# 春の自然

## 春新たななり

春が来た。春立ちかへると昔の歌人はいつたが、私はそう思はない。春は新しく始めて私の前に来るのである。年々歳々人同じからず。年々歳々花は同じと唐人は言つたが、私はそう思はない。人こそ何時も同じ處に舊り易いが、花は、春は、年々歳々絶えず新しい。

新らしければこそ心躍る。我は日々に新らしく生れ、心は日々に新らしく躍る。春風何ぞ爽かに。春空何ぞ明かなる。草の葉と梢の花は、新らしき朝の露に潤ひ、新らしき朝の日光に瞬く。小鳥はその新らしき嘴に新らしき歌を唱ひ、小馬はその新らしき蹄に新らしき土を踏む。人間いかで獨り舊りん。今朝新らしき呼吸香ばしく、新らしき血胸に温かなり。新らしく見、新らしく聞き、新らしく觸れ、新らしき旋律に漂ふて野に擴がり丘をめぐる。あゝ春新たに人も亦新たなる日よ。(倉橋生)

## 一、春の景色

東京女子高等師範學校  
訓導兼教諭

堀

七

藏

## ○春の空模様

「春秋」に春喜氣也故生、秋怒氣也故殺、夏樂氣也故養、冬哀氣也故藏とある。實に春は萬物發るを以

て其名あるといふ位氣候溫暖にて草木は伸長し百花爛熳禽獸悉く冬眠よりさめて喜戯するといふ誠に愉快なる季節である。この春の天地、この春の自然、之を彩るものは春雨、春霞、花曇である。是等が春の舞臺を形成する要素ではあるまいか。

## ○彼岸の中目

生死を彼岸とし涅槃を彼岸とするは佛經の語、春分秋分の日を彼岸の中目と稱し諸佛に詣で亡靈に供養するも佛家の習俗であるが、それは兎に角として春分は晝夜平分にして冬至から次第に赤道に近きつゝ、あつた太陽は更に益々北に來るので氣溫は漸次に昇る。従つて地上深く積れる氷雪はこの陽氣によりて融け之が水蒸氣となりて盛に上昇する。この上昇せる水蒸氣が春雨となり春霞となり花曇を現出するのである。

## ○春霞

地上より蒸發する水蒸氣は空氣と共に上昇する。換言すれば水蒸氣を多く含める空氣は地面より上昇する。所が春はまだ上層の氣溫低きがため下方より上昇し來れる空氣がこの溫度低き氣層に達する。其含める水蒸氣は茲にて冷却し微細なる水滴となり之か霞で、春は、屢々、朝夕この霞の棚引を見るのである。元來霞といふも霧といふも共に地面近くの空氣中にある水蒸氣が凝結して空中に浮遊してゐるものを稱する。故に霧と霞とは劃然たる區別がない。世俗には春霞と稱し春霧とはいはず秋霧と稱して秋霞とはいはぬ。大體に於て春より夏にかけては霞と稱し秋より冬にかけては霧といふ。更に強ひて霞と

霧とを區別すれば霧の薄いのが霞で、霧の水粒は肉眼でも注意すると分るが、霞の水粒は一層微細にして分らぬ點にある。しかし學術上は霧と霞とを同一のものとなし、凡て霧として取扱つてゐる。尤も文學上では霞の衣とか霞立つや野邊へ景色面白しとかまた雲霞など霧と區別すること屢々である。

## ○花　　曇

櫻花爛熳たる陽春四月は實に花曇りである。昨日も今日も、今日も明日も降るでもなく照るでもなく只どんよりと曇つてゐるといふのが所謂花曇り、花咲く春の特徴である。これ地面に近き氣温は著しく高くなり水蒸氣の蒸發することが多いが上層の氣温が低いためと殊に季節風の交替する時期で定風がなく地方的の小低氣壓が頻繁に起るために曇天の續くのであるといふ。

## ○曇　　と　　晴

普通の人は日記をつける時、晴雨の記入に一定の標準がない。どこまでが晴で、どこまでを曇となすか、甚だ不明である。しかし氣象學上でいふ晴と曇、天氣豫報に用ひる晴と曇には一定の區別がある。降水の有無にかゝはらず雲量の多少によつて晴曇を定める。即ち雲量二以下を快晴、三から七迄を晴、八以上を曇とする。換言すれば全日の平均雲量二未滿なる時は其日を快晴、八以上なる時は曇天とし、其他を晴となす。而して平均雲量とは雲に被はれた空の分量である、天空拭ふが如く全く雲のない時は雲量〇で、滿天雲に被はれてゐる時は一〇で、雲に被はれた空の部分が天空の半に達すれば雲量五であるとなし、雲量を十級に分つのである。また雨天は〇・一耗以上の雨量のあつた日で、一寸雨がばらばらと

降つたときには雨天とはいはないのである。

## ○春 雨

花曇りの時節には雨の降ることも多い。これは地方的の小低氣壓が頻繁に起るためで、恰も梅雨期の降雨が支那揚子江沿岸地方に發生せる低氣壓の續出して本邦を襲來するに起因すると同様であるらしい。

兎に角春雨が土地を濕し太陽は地上を照すので地上の草木は新芽を伸し種子は盛に發芽する。春秋の所謂春喜氣也故生の好季節である。

## ○陽 炎

春の長閑なる日にチラ／＼と空中に立上りて見ゆる氣で亦春の一特色をなす。熱せられて立上る空氣に光線が反射し、吾人の目に入るから起る現象である。冬の日、熱せるストロブの上方を見るとチラ／＼立上る陽炎があり。夏の日焼けたる屋根瓦の上を見ると亦この陽炎が立上る。しかし春の陽炎は春の陽氣と共に人心を長閑に靜穩になすもので何ともいへぬ風情のあること勿論である。

## 二、引き潮の跡

東京女子高等  
師範學校助教授

平 島 權 藏

四月は一年の中で最もよく潮の干る時で在り、また干て居る時間も長いので在ります。殊に本年の四